



函館からトラスト

「から」は函館からトラスト事務局から発行されるニュースレター。

公益信託函館色彩まちづくり基金を応援し、函館の方々に関わる情報からまちづくりに関わる情報まで、あちこちから集めて紹介します。皆様からの情報はもちろん、からくちのご意見もお待ちしております。



December 2003 No.21

## 2003年の函館からトラスト



2003年は函館からトラストにとって新しいスタートの年となりました。10年目をむかえ、西部地区の景観・住環境など課題が顕在化しており、基金が目的とした西部地区のまちづくりを積極的に助成し、目に見える成果づくりの必要から、基金取り崩しにより助成額を拡大することを決め、今年度5チームに対し150万の助成を行いました。各助成チームの成果が期待されます。成果の発表は2004年2月の運営委員会の予定です。それに加え、基金の運営をサポートする函館からトラスト事務局自体も、西部地区のまちづくりを担うべく、様々な助成金を獲得し、調査活動をスタートさせました。



新運営委員のみなさん

今年度、函館からトラスト事務局が係わってスタートしたまちづくり活動

### ● まちづくりワークショップ2003

市民サイドから西部地区のまちづくりや保存再生、地主や住民の空き家、空き地の活用の相談、さまざまな地域の問題等についてまちを歩き、現状を認識し、町並み・住環境の課題、空き家問題等を話し合い、対策を考える連続ワークショップ。第1回が7月19日の「西部地区の町並み・住環境を点検する」。第2回が8月8日の「西部地区・空き家見学会」。第3回が9月27日の「西部地区・空き家の再生を考える」。延べ50名ほどの参加がありました。8月のワークショップは函館西部地区での夏の恒例行事になっている、町家ペンキ塗り替えボランティア隊の活動や子どもたちの環境学習ワークショップ「じろじろ大学・夏の学校」ともリンクして行われました。

### ● 町家群の空き家活用による町家体験ハウスの運用

元町・町家サロン(元町24-17)にて、8月16日～9月20日の間、アーティストインレジデンス形式の空き家活用アートイベント「and so on-なつのつかいみちはこだてー」が開催され、東京、北九州、札幌、函館、などから若手アーティストが参加しました。(6～7Pに紹介記事があります)

### ● 町家「交流のサロン」の開催

町家を会場にした「交流のサロン」を3ヶ月に1回程度のペースで開催する計画。第1回の「大木裕之ワークショップ～新しい映像の可能性」を8月16日、はこだて写真図書館1Fスペースで開催。参加者10名。次回は2004年1月に青森国際芸術センターの浜田剛次さんを講師に開催予定です。

### ● 空き家活用相互の情報交流活動

西部地区とも共通する生活感のある街並みを活かしながら、空き家活用など、地域の再生まちづくりに取り組む活動との、全国的な情報交流を行いました。9月に東京・向島での取り組みの現地調査と、向島学会へのヒヤリングと意見交換、11月には、京都の町家再生研究会や作事組へのヒヤリングを行いました。

### ● 西部地区でのまちづくりハウスと空き家バンクの実現化に向けて

9月以降は、函館からトラスト事務局だけでなく、街なか再生研究会、函館市役所とも協働し、西部地区再生に取り組むまちづくりの新たな仕組みづくりに向けての打ち合わせ会を度々行いました。今後、具体的な仕組みの基本方向を確立し、立ち上げの準備を進めていく予定です。

申請者	助成希望テーマ	申請金額	助成決定金額
ペンキ塗りボランティア隊 代表 水上啓大	町家ペンキ塗りワークショップ・10周年	30	30
西部町並み調査隊 代表 森下満	函館市西部地区町並み住環境調査	75	65
函館デザインセミナー 代表 羽佐田恵	情報デザインワークショップ「函館セミナー」の開催 1.情報デザインの手法を用いてまちづくりに寄与できるような、提言・提案をまとめる 2.複数大学間の異なる観点を活かしながら情報デザインで改善できる地域の問題を見つめる	16	15
どんぐりを植える会 代表 松永助彦	地球環境保全と沿岸域の再生	28	20
node 0138プロジェクト 代表 渡辺保史	地域デジタルアーカイブの構築を目指した都市環境マップの事業化と用途開発	100	20
函館デザイン協議会 代表 渡辺譲治	茅葺き民家のリデザイン (七飯町峠下地区)	100	
中嶋康二	函館出身の挿入画家小山内龍が大野町で採集した(昭和20年、21年)昆虫標本などの保存を関係者ならびに市民に訴えるための展示会。小山内の標本を目録としてまとめる。	44.75	
合計(単位:万円)		393.75	150



## 函館の西部地区の変容

われわれの活動の拠点となる函館市西部地区は、ここ何年か、目に見えて地域の衰退と高齢化が進んできているように思われる。地域のまちづくり課題は深刻である。地域の再生、まちづくりに我々自身が取り組む必要性を強く認識し始めている。函館西部地区は函館の都市形成の歴史のなかで中心地の市街地として存在してきた。さまざまな歴史的、文化的ストックが存在する。しかし地区のまちづくりを観光化だけに頼るのには問題があり、地域の主要な機能である住環境としての再生こそをはかる必要がある。今年基金でも西部町並み調査隊へ助成や、函館からトラスト事務局も函館市まちづくりセンターやハウジングアンドコミュニティ財団から助成を受け、対策をたてるための西部地区の町並み住環境調査を行っている。

### 人口の減少と地区衰退

函館市に占める西部地区の人口の割合は、2003年ではわずかに5%に過ぎない。かつて1955年(昭和30)には、地区の人口は46,983人、函館市全体は267,936人、その占める割合は17.5%、それが20年間で、1975年(昭和50)には9.3%、半分までさがる。その後、30年間で、さらにその半分まで下がってしまった。いまや西部地区暮らす住民は、函館市民20人に1人であり、あきらかに少数派になってしまっている。

末広、豊川、青柳町は、1980年(昭和55)/2003年(平成15)比で人口は70~80%で、同時期の函館市の人口減の割合89.3%に近いが、それより西の地区はほとんど50%台で、この20年間で人口減少の割合は加速しているともいえる。

その結果、高齢化が進み、建物の維持管理も十分でない状態となり、大量の空き家と廃屋など、老朽建物の出現に至っている。

函館駅近く、松風町に有名なバー「杉の子」がある。安い値段のハイボールを楽しみにしている常連客で、いまもにぎわう店だが、周辺の荒廃ぶ

りには、驚かされるものがある。松風町はJR函館駅前のかつての中心商店街であり、飲み屋街だが、都心が東の五稜郭周辺に移ってしまったため、空き家となった雑居ビルが朽ち果てるまま並び、あたかもゴーストタウンのような場所になってしまっている。西部地区はその住宅地版である。空洞化と衰退の流れに歯止めがかからず、地域コミュニティは衰退し、高齢化が急速に進んで、65歳以上の地区人口に占める割合は3人に1人にまで達している。

### 空き家の出現

特にこの数年歴史的な町家の取り壊しや老朽化が急速に進むなか、大量の空き家(函館市まちづくり推進課の昨年の調査では209軒)が発生し、町並みや生活環境が崩壊する危機に直面している。建物の老朽化も相まって、維持

■西部地区の人口の変化

町名	年	1955年	1960年	1965年	1970年	1975年	1980年	1983年	2001年	2003年	2003/1955年	2003/1980年
入舟町		4,264	3,489	3,310	2,773	2,293	1,918	1,812	1,087	1,004	23.5%	52.3%
船見町		5,181	4,615	4,494	4,071	3,800	3,154	3,023	1,713	1,646	31.8%	52.2%
弥生町		5,480	4,888	4,566	4,069	3,851	3,391	3,074	1,776	1,721	31.4%	50.8%
舟天町		6,073	4,934	4,422	3,658	2,793	2,155	2,174	1,385	1,325	21.8%	61.5%
大町		3,237	2,884	2,511	2,088	1,845	1,540	1,452	748	770	23.8%	50.0%
末広町		4,038	3,893	3,323	2,583	2,008	1,692	1,630	1,201	1,228	30.4%	72.6%
光町		5,255	4,843	4,573	3,648	3,367	2,887	2,466	1,458	1,485	28.3%	51.4%
青柳町		5,047	4,764	4,481	4,003	3,603	3,170	3,160	2,349	2,280	45.2%	71.9%
宝来町		5,588	5,288	5,315	4,416	3,746	3,300	3,148	1,984	1,830	32.7%	55.5%
豊川町		2,820	2,643	2,083	1,695	1,405	1,234	1,203	1,020	1,002	35.5%	81.2%
西部地区合計		46,983	42,241	39,078	33,004	28,711	24,441	23,142	14,721	14,291	30.4%	58.5%
函館市合計		267,936	271,163	281,029	292,286	307,453	320,154	319,765	288,980	285,851	106.7%	89.3%
西部地区の割合/函館市		17.5	15.6	13.9	11.3	9.3	7.6	7.2	5.1	5.0(%)		

できない生活環境の出現など、行政の保全策だけでは対応しきれない状況が生まれ、生活レベルでの面的な活力づくりや空き家の保存活用、住環境の修復などの対策がまちづくりの緊急の課題となっている。高齢者の暮らす西部地区の環境は、昔からのつき合いのある親密なコミュニティが残る反面、路



■ワークショップ風景 (03年9月)

● 空き家再生可能性調査 ●

■西部地区(舟見町、弥生町、弁天町、元町、大町、末広町、豊川町)

(1) 調査の指標 (以下の4要素で評価)

- 再利用可能性でみた建物の立地性
- 再利用可能性でみた建物の歴史的価値
- 再利用可能性でみた建物の老朽化、再生の容易さ
- 再生した場合の魅力度

(2) 調査による建物ランク分け (平成14年調査/全空き家209軒-函館市まちづくり推進課データ)

【再利用可能空き家】

Aランク(歴史的価値、建物の状態、立地性等評価の高いもの)

……22軒

Bランク(歴史的価値、建物の状態、立地性等評価が中以下のもの)

……36軒

【再利用困難空き家】

(大手術が必要、更地化建て替えの可能性大)……151軒

(3) 町別空き家対策案調査

- ・ 地区調査と計画策定 (町単位ごとの空き家対策案の策定)

(4) Aランク空き家再生計画案の策定調査

- ・ 建物ごとにオーナーの面談
- ・ 調査許可建物の実測調査(約10軒程度想定)
- ・ 実測調査建物の現況図面作成
- ・ 実測調査建物の再生企画案づくり
- ・ 実測調査建物(約10軒)の再生設計案作成と費用概算

(5) Bランク空き家再生計画案の策定調査

- ・ Aランクのうち実測不可能建物(約12軒)の概略再生案の作成
- ・ Bランク空き家再生の概略再生案の作成

地の長屋や裏宅地の廃屋など住環境として、課題を抱えているものが多い。また函館西部地区の魅力でもある美しい坂道も、冬の期間凍結など、生活上は特に高齢者にとって困難なものになっている。

こういう状況に対し、我々の計画としては空き家調査やその再利用方策づくり、地域の高齢者などの住民と一緒に地域のくらしと環境向上を考えるワークショップを開催し、住み続けながら暮らしの生活環境を向上をはかるまちづくりプランをつくりあげることなど、提案づくりを行っていきたいと考えている。

● まちづくりハウスと空き家バンクの実現化検討調査 ●

西部地区での歴史的建物の再生の建築的課題として、

- ・ 町家の改修や再利用などの気軽な相談窓口
- ・ 歴史的町家の改善工事の技術面でのサポート体制
- ・ 歴史的町家などの活用流通を行いやすくする仕組みづくり

が西部地区で緊急の課題となっている。これらの課題に対し、行政施策として取り組みには限界があり、京都や向島での例をあげるまでもなく、民間非営利のまちづくりの仕組みが必要となってきている。

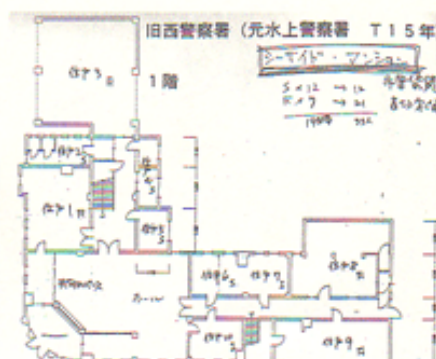
西部地区での歴史的建物の調査と空き家の再生提案を実施していく組織として、市民サイドから西部地区のまちづくりや空き家の保存再生、地主や住民の空き地の活用の相談、さまざまな地域の問題等に相談窓口となり、行政側とのパートナーシップをもった「まちづくりハウス」の立ち上げと町家活用を民間非営利のコミュニティビジネスとして展開する「空き家バンク」運営の可能性について、調査し、実現に向けての方策、課題をさぐる。



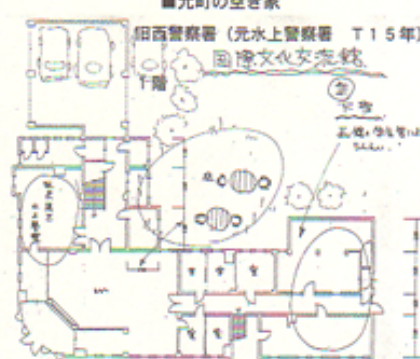
■元町の空き家



■弁天の空き家



■ワークショップで考案された、空き家再生案2例





## 町家ペンキ塗りワークショップ・10周年



函館からトラストから助成金を得て、町家ペンキ塗りボランティア活動を始めたのが1994年。記念すべき10周年を迎えることになった。今年は、地元函館の教育大学学生が参加できる日程をくみ、例年より一ヶ月ほど早い8月上旬の9（土）と10日（日）の2日間でおこなった。あいにく台風の影響をものに受け、初日は終日雨。2日目も明け方近くまで降り続き、今年はさすがに駄目かと観念した。が、台風の進路が東にそれたおかげで、雨があがり、台風一過の晴天となった。奇跡的な出来事だった。1日で2棟の外観を塗るというハードな日程となったものの、大勢のボランティア参加があり、何とか塗り終えることができた。

対象物件は、教会群や寺のある西部地区の中心部から徒歩5分ほどの閑静な住宅地の一角にある、隣接する2棟である。1棟は、洋風の2階建て・2戸一長屋で、7年前に我々がペンキ塗りをしたものである。今回はこれまでの西部地区には見当たらない新しい色をとということで、外壁をサーモンピンクのような肌色、窓枠・柱等を茶色、小庇を黒色に塗り替えることにした。もう1棟は和風の平屋建て・2戸一長屋で、外壁下見板にはペンキが塗られておらず、屋根葺き材の鉄板も錆びており、見るからに老朽化していた。これを、西部地区の伝統的建造物群保存地区にある同じ和風様式の建物をモデルとして、外壁下見板を黒色、正面外壁上部塗壁を白色に塗り替えた。屋根や小庇

の鉄板も黒色に塗った。すると、まるで本格的にリフォームされたかのように、本当に見違える姿に生まれ変わった。周辺住民の評判も上々である。

今回は10周年記念として、ペンキ塗りに加えて、いろいろな新しい試みをおこなった。一つは、これまでの活動の歩みをきちんと記録に残したことである。ペンキ塗り替え活動による都市景観の改善効果が誰の目にもはっきりとわかるように、塗り替え前の状況、塗り替え作業の最中、塗り替え後のカラー写真3点をワンセットとし、活動年月日、対象町家



■中上段／ペンキ塗り替え作業  
中下段／ペンキ塗り替え後。2棟並んだ建物のうち向かって左側（写真左）がサーモンピンクに、右側の建物（写真右）が黒色に塗り替えられた。

■右/小学生によるベンキ塗り作業風景

の名称・創建年・住所、塗り替えの配色、参加者名と協力者名の一覧をデータとして掲載したものを、A2版で11枚のパネルにまとめた。

二つは、他の市民まちづくり活動とのコラボレーションをおこなったことである。「じろじろ大学まちワーク研究室」主催の、塾長・村岡さんや教育大学の根本先生らが企画された、じろじろ大学と教育大学の講義の一環として、小学生13名を対象に西部地区の「まちを理解する」ワークショップの最後を飾り、小学生たちにベンキ塗りに参加してもらっ



た。また西部地区では、建物の老朽化や人口の減少・高齢化にともない空き家が増え、その活用が課題となっているが、それに向けたまちづくり活動とのコラボレーションとして、和風の平屋建ての町家では外観だけでなく内部においてもベンキ塗りをおこなった。これはその後、20代の若手アーティストによる作品制作と展覧会の会場として、さらには西部地区の町並み・住環境の再生をめざす、まちづくりワークショップの会場として利用されるなど、町家交流サロンとして空き家活用の拠点になりつつある。

最後に、当日2日間ベンキ塗りにボランティア参加してくれた皆さん（北海道教育大学函館校の学生10人・日、函館高専の学生4人・日、函館工業高校の生徒11人・日、市内の小学生13人・日、一般市民7人・日、北海道大学の学生19人・日、早稲田大学の学生2人・日、若手アーティスト3人・日、総計69人・日）ありがとう、来年もよろしく。



はこなつ

and so on なつの つかいみち はこだて

内田亨楠

井上健一

野上裕之

スズキジュンコ

泥庵

VF

NP-03

宮嶋宏美

大木裕之

久野志乃

佐々木玄

MA

元町

末広町

大手町

宝来町

谷地頭温泉

海

港

麦之助

GUINNESS

料理

散歩

夏休み

滞在

落書き

制作

作品

美術

状況

悪意

8/16-9/20

am11:00～日没頃

元町24-17

なつの

つかいみち

はこだて

and so on

ma\_unit@hotmail.com

終

報告:佐々木玄  
宮嶋宏美

内田:俺は何処でもできるから、あ、散歩は楽しかったよ、あと海。  
井上:楽しかったです、海が、  
野上:内田君にいじめられました。  
内田:いじめじゃないよ、遊んでやったんだよ、楽しかったやろ?  
野上:…うん。  
NP-03:でも面白いだったよ、対等じゃないって言うか、  
内田:だって前は神だったのに、再会したら犬とモブ君になってたんだから、仕方ないよ。  
井上:え、神って何?  
内田:ひろゆき(野上)は前に神になって、面館を作った、そう言う事。  
NP-03:それはそうと、健ちゃん(井上)のhtml講座は好評だったね。  
井上:でも俺Windowsだから、Macは使いにくかったよ、そう言えば最近更新されないね。  
NP-03:何かIP作るソフトが欲しいって云ってたよ。  
内田:とにかくはこなつはそんな感じだったって事、終わり!  
大木:ちょっと寄っただけだったけど、にんにく炒飯食べたな、なあ、まる(宮嶋)！  
宮嶋:…  
内田:大木さんキター！  
大木:遊んであげないよー  
佐々木:まるはまた寝てるのか。  
宮嶋:…え、寝てないですよ、起きてますよ。  
佐々木:そう言えば大木さんも生活時間狂ってたね。  
佐々木:志乃(久野)ちゃんの朝ごはん食べた人は幸運だったね。  
内田:だね、飯作る為にわざわざ来たんだからね、食材抱えての御到着。  
井上:話には聞いてたけど、まさかあんなに美味しいとは…ほんとに驚いた。  
佐々木:あとまるの金髪もびっくりだった。  
内田:あ、ピッチ宮嶋ね、あれもいいネタになった。  
久野:ほんとにちょっとしか居られなくて…短い夏でした。  
佐々木:どうでもいいけど、まるの曲はかわいいよね。  
宮嶋:あ、そうですか。  
スズキ:着いたら真っ暗でろうそくの明かりで飲んでびっくりした。  
佐々木:久々のろうそくの会だったんよー、場所が場所なだけに、ちょっと恐かったね。  
内田:ひろゆきに落着きしてラッビに行かせたの、面白かったね。  
佐々木:あれはさすがに怒るかと思ったけど、内心は怒ってたでしょ。  
野上:いや、別に怒ってなかったよ。  
スズキ:あれだけ何されても怒んないとかえって恐いよね。  
佐々木:ねえさん(スズキ)のおみやげ焼酎、旨かったなあ。  
内田:あーあれは旨かったね、久々に旨い焼酎飲んだ。  
佐々木:ラジオ聴かったね。  
宮嶋:全部君のせいだしよ。  
佐々木:うん、酔っ払ってたらしょうがないよ。  
スズキ:ほんと落ち着きなくて、コノヤローと思ったよ。  
佐々木:やっぱヘルタースケルターはいいよなあ。  
佐々木:二人ともイカのさばき方知ってて、ね、イカ美味しかったな。  
野上:調理のバイトしてたからね。  
スズキ:イカぐらい誰でもさばけるよ。  
佐々木:あとひろゆきの作った豚の角煮、ひろゆきはいろいろ出来る人だね、犬とモブだけ、ワン！で云ってみてよ。  
野上:わん。  
泥庵:まさかあれ程の傑作が出来るとは…もちろん『呼び声』(泥庵短編集)の事です。  
佐々木:そうですね、あれは凄かった、で、あなたは一体誰?  
泥庵:愚問には答えません。  
V:VFは結局大して動けなかったね。  
F:そうだね、ネタは結構あったけど、消化不良だったね。  
V:そう言う時があってもいいじゃん。  
F:うん、別にいいよ、でもその殆どは君が飲んだくれてたせいなんだよ。  
V:あ、やっぱり？まあ、そう言う時もあるよ。  
F:いつまでもでしょ。  
V:だから、それは役割なんだってば。  
F:それは分かっているけど、最近いいわけにしてない?  
佐々木:まるは大変だったね、週末ごとに来てて、そのうち免許も停止になるし、列車もバスも乗り過ごすし、いつも眠いし…

宮嶋:はい、散々でした、あ、でも早朝は眠くないですよ。  
佐々木:そうだね、でも午前四時くらいに会場で作作してんので結構無気味だったよ。  
宮嶋:あの時間帯が一番元気なんですよ。  
佐々木:僕が起きてる時は大体眠そうにしてて、て言うか眠って、話し合いとか殆ど出来なかったのは結果として良かったのかな。  
宮嶋:うーん、話し合ってたか変わらなくて感じでもなかったと思えますよ。  
佐々木:だね、全面的システム自体はもう出来ちゃってて、あとは潜在者の動き次第で感じだったもんなー、でも潜在者に何かを期待してたってわけでもないよね、潜在者って何だったんだろう。  
宮嶋:何だったんでしょうか。  
佐々木:何かこうしてあとから考えると、わかんなくなるね、あー、期待じゃなくて、どう転んでもいいやって事かな、自分で転ぶと嘘くさいから、誰かに転んでもらうって言う、それは失礼な話になるのかな。  
宮嶋:まあでもみんな結局転んだわけだし。  
佐々木:そうだね、見事に転んだね、一人くらいまともに動かかと思っただけど、あ、ひろゆきのドアの作品とまるのふすまに描いたやつはまともだった、この云い方もちょっと変だけど、まあ結局他の転び組に埋没してしまった感じになってしまったんだけど、まるは故意にまともな動きをしようとしてたわけだし、あーでもそこ考えるとややこしくなるからやめよう、ただ、こう云ってしまおうと、僕らは潜在者がどのように動いたとしても、それがそこの状況であると言う風に容認してしまうつもりで企画を組んでたって事になるよね。  
宮嶋:うーん…  
佐々木:で、この辺から核心的なだけで、僕らは状況を見せる為にこの企画をやったって言う事、つまり、誰かしらが潜在して、その結果こう言う状況が今出来てるって言う事を見せる、あーやっぱ面白い、状況と意思、これ！  
内田:玄ちゃん(佐々木)、それじゃ話が進まんよ。  
宮嶋:あ、内田君久しぶり。  
内田:あ、まるちゃん久しぶり。  
佐々木:まあそう言うわけで潜在者についてから、状況、意思についてまで話がちやくちやくしてるところで、内田君はどうだった?  
内田:え、いきなり？うーん、とりあえず俺に関して言えば、まあ企画の話聞いてから幾つかプランは考えたけど、面館着いたらそれらはもう魅力を失って、結局わりばしのやつしかやらなかったんだけど。  
佐々木:それはこの前云った鮮度の話ですね。  
内田:うん、考えて持って来たプランは鮮度が落ちてしまっただけで、それよりもその場で思い付いたプランの方が魅力的だった、だからそっちの方に傾いて結局わりばしの方は途中で投げた、って云ってても別にその場所の特性とか地域性とかに言及するわけじゃなくて、大体鮮度で云ってても俺の中の話だし。  
佐々木:うん、僕らはさっき潜在者って何だったんだろうって話をしたんだけど、内田君はその潜在者だったわけだから…  
内田:あ、そう言う話ね、まあ、云っちゃえば呼ばれたから来た、それだけ、ただ俺は企画の話をちよくちよく玄ちゃんから聞いたからね、付き合ってもそれなりに長いし、この人のどう言う意図でやろうとするのかは何となく分かってたってやっただけのもあると思うよ、だからある意味参考にはならんかも。  
佐々木:でもそれを言うなら、他の潜在者も僕ら、つまりMAとのつながりの中での、だからねえ、まずもって人脈がないから、何て言うかほんとにざりざり感じだったわけ、でもって他の人の事はよく知らないから、僕としては内田君が頼りだった、だから最初想定と云うか考えてたのは、内田君が突っ走って、他の人がまともな動きをする、そのギャップに於いて内田君が光るみたい、かなり内田びいきな考えだったのだけだ。  
内田:でも結局みんな何処かしら俺に引られる結果になった。  
佐々木:そう、と云ってもまあ参加した人数も少ないけど、その話は内田君とひろゆきの関係に於いて顕著なわけで、まるはある意味自分の考えた役割を遂行したんだから、この件からはずれるよね。  
宮嶋:はい。  
佐々木:今こうやって話してるのも全て「状況」と言う事に集約される事は強調しておくべきだと思うんだけど、とにかく内田の対症的な要素となるはずの者が内田に引られる、あーでもこれも内田君が「作品」とかそう言う事に感心ないでしょ？  
内田:うん、俺は面白い面白くないにしか興味ないからね、佐々木:そこには誰にとっても、と云う問題が付きまとうんだけど、その辺に関しては何？  
内田:やっぱり俺にとって、が第一、俺が面白くない事は、やらぬ。  
佐々木:でも、公開、展示するわけだよ？

内田:うん、それはやっぱり提示、って事だと思、俺が面白くって思、うも面白くって思、う人がいるだろうって云う…  
佐々木:でもいとも面白くもないと云えばいいんでしょ？  
内田:うん、けど、俺だけやたらやっぱ淋しいやん。  
佐々木:こもまた微妙な話だね、実際は自己完結する為に動きを起こしてるわけじゃないし、可能性にしろろうとしてるわけでもない、僕ら、これは狭い意味でのだけで、僕らはそれをうまく説明出来る、と云う事ですよ。  
内田:その通り、まあその辺を説明する必要があるのかってのも疑問だけど、そう云うのも含めて面白いし、俺にはよーわからんし、だから俺は俺が面白くって思、う事だけをやる、それだけ。  
佐々木:うん、それはよくわかる、僕はそこが何とかならないかなと思って泥沼にはまる、どっちがいいって話ではないけど、とかく僕は考え過ぎる…  
宮嶋:あ、話がかなりずれてると思うんですが、佐々木:御指摘どうも、まさにその通りで、何の話だ、宮嶋:潜在者って一体…と云う話です。  
佐々木:あーそれぞれ、もうそこはいいや、潜在者も状況設定の一つ、それでよくない？  
内田:俺は別に構わんよ。  
佐々木:で、状況！全部状況、それは結果としてそこに出来てしまっていた状況、MAは初期設定だけ組んで、あとはそこから勝手に展開していった、会場にある一つ一つのものを見るのではなくて、会場、と云うよりは潜在者とも含めての状況を見る、そう云う見方をすればいい企画、と云うか、そう云う見方をしてもらいたかった、て感じかな、結果として、だ、あ、確かにしんない、  
内田:やっぱり話が進まんよ。  
佐々木:うー、もう少し粘る、意思、分りやすく云えば、まともな、まっとうな、って何なんだろうね、と、かく、そう云う風な事はしない、と云う意思、最初想定では他の潜在者がまともな事やって、内田君が外れた事をやる、だった、だったけど、結局他の潜在者が内田君に引られてしまっただけで、みんな外れた、僕はその時点でうまく転んだけど、それぞれが何考えてたのかなんて事はあえて聞かなかったけど、結果としてまともな何かってのはなかったわけ、云うなれば僕が考えてた意思に加担する事になった、あ、まともな、じゃなくて真面目な、って云った方がいいかな、どっちにしてもあんまり信用出来ない言葉だけど、  
内田:無理矢理まとめようとするやろ。  
佐々木:うん、無理矢理って言うか、僕は状況と意思、この二つで十分だと思ってるから、それがこの企画の表現、個々の潜在者のやった事については、特に何かを云うつもりはない、あーでもこう云う風に云ったら嫌いな企画者かな。  
内田:そうでもないよ。  
佐々木:あ、じゃあ内田君まとめて。  
内田:はこなつこのキーワードは「状況」と「意思」、あとはご自由に、終わり！  
佐々木:会場と見てないひとにはさっぱりだろうね、こんなんでいいのかねえ。  
宮嶋:うーん、これ以上何かが出て来そうにもないし、ひとまず今日はこの辺で、と云う事でどうでしょう。  
佐々木:今日は、って次はあるの？ うやむやにブツと終わる、黙然としないのどごしの悪さ、それがMA。  
内田:ちょっと意思過ぎやない？  
佐々木:何にしても今日はお疲れ様でした。  
宮嶋:あ、はい、お疲れ様でした。  
内田:じゃあまたね。

and so on  
なつの つかひみち はこだて

会期:2003.8.16-9.20  
am11:00~日没頃  
会場:新城市元町の民家  
(元町24-17)  
企画:MA  
協力:柳田良造  
:新館からトラスト

二軒長屋の民家  
(町家サロン)の片方を  
滞在用に、もう一方を  
会場に使用し、  
会期同参加作家が  
任意の時期に滞在し、  
発表をおこなった企画。



## 公益信託函館色彩まちづくり基金・まちづくり活動助成公募

こうしたい、こうなったらいいな。そう思うだけでは何も始まらない。悩むより、まずは動いてみよう！  
そんなみなさんを、私たちが応援します。どんな夢でも応募してみてください。そこからきっと……あなたの「まちづくり」活動はもう始まっています。

公益信託函館色彩まちづくり基金では、今年も助成活動グループを募集します。平成5年の基金発足時より函館の市民まちづくりを応援してきましたが、10年目を向かえ、助成総額を約3倍に増大させさらに充実した市民まちづくり活動を助成、応援することになりました。意欲的なまちづくり活動を目指す団体にとっては、チャンス到来です。ふるってご応募ください。

■募集内容 函館のまちづくりに関わる、市民レベルの様々な活動や研究、企画  
応募資格は函館市民に限りません

■応募期間 平成15年12月1日～16年1月31日

■審査方法 公益信託函館色彩まちづくり基金運営委員会による審査を行い、その結果をふまえて住友信託銀行が決定します

### ■運営委員

- ◎ 荻沢憲吉 (函館工業高等専門学校教授)
- ◎ 角幸博 (北海道大学大学院工学研究科建築史教授)
- ◎ 佐々木貴子 (北海道教育大学函館校助教授)
- ◎ 腰山みゆき (カラーコーディネーター・オフィスNORD)
- ◎ 加納淳治 (編集室Kanou)
- ◎ 中尾繁 (北海道大学大学院水産学研究科教授)
- ◎ 小澤武 (建築家・小澤研究室)
- ◎ 二本柳慶一 (建築家・二本柳建築設計事務所)
- ◎ 小柏忠久 (函館市都市建設部部長)

■審査発表 応募者全員に通知。「から」22号紙上でも結果を発表します


■助成金額 原則として1件当たり20万円～100万円まで

■活動報告 助成を受けた活動は平成16年8月の中間報告と平成17年3月の最終報告ならびに会計報告をお願いします

■基金委託者 (株)住友信託銀行札幌支店  
〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目3  
TEL: 011-251-2171

■応募用紙請求・応募宛先／函館からトラスト事務局  
〒040-0001 函館市五稜郭町19-15 TEL: 0138-52-8411 日昇商事内  
〒064-0915 札幌市中央区南15条西17丁目4-30 TEL: 011-513-0977

「函館からトラスト事務局」が、ふるさとづくり賞の振興奨励賞に選ばれました。



今年は、「から」にとって新しい試みの年でしたが、日本を見ると歴史の歯車が確実にカチと動いたことを感じさせられる年でもありました。戦争への道も、すべてなし崩しに進んでいくこの国の仕組みのなかで、立ち止まる決断や引き返す勇気とはどこから生まれるくるのだろうかかと心配になってきます。本号でも取り上げているように、今後悪化していく可能性のある西部地区の街並みや住環境に対し、このまま「なし崩し」にするのではなく、明快な対策が実行できる勇気や決断力をもたねばと思っています。

から21号  
kara.Dec.2003 No.21

■編集 柳田良造  
宮嶋宏美

風土生かした活動評価  
「函館からトラスト事務局」  
まちづくりで全国奨励賞に

